

第2回 常滑市宿泊税検討委員会（会議録 概要）

開催日時 令和5年10月18日（水） 10時00分～

開催場所 常滑市役所1階 F会議室

委員からの意見や質問は●、事務局の説明や回答は◎で表記

■次第1 あいさつ

■次第2 （1）第1回宿泊税検討委員会の振り返り及び市の見解について【資料1】

事務局から第1回検討委員会の振り返りについて、事務局から説明。

●システム整備補助金について引き続きヒアリング等を実施し、現状の把握を。100%補助は、良くない。

●整備補助金は先進自治体よりも手厚くケアをされていると理解しておりますが、適正に税金を使っていく上で、見積もりが適正かどうかという点も重要かと思えます。その確認についてはどのように行う予定でしょうか。

◎申請に見積書を付けていただきまして、適正かの判断になります。細かいところまでの判断は難しいとは思いますが、できる限り十分な審査・精査をしていきたい。

■次第2 （2）宿泊事業者ヒアリング結果について【資料2】

●地元の個人経営のようなオーナーは宿泊税の導入は厳しい。使い方として、常滑市は、観光で頑張るんだというのを前面に出してほしい。まず初めに認知を高めるところをやってほしい。観光で来てくれるお客さんを増やさないと、払っている意味がない。

●昔の窯業のスタイルが悪くなっている反面、若手の作家さんは、全然景気悪くないという方もいる。業態が変わっているだけで、産業自体は新しくできて伸びてきている部分もある。

●北京、アメリカ、香港の方などが戻って来ているのを実際に見ている。個人で旅行されている方が常滑市をどのように選んだんですかと質問したら、google マップで猫を見て、猫が有名だと思ってきましたと聞いた。次は、どう宿泊に繋がられるか。

●観光客イコール宿泊客ではない。世界観光機関で、ツーリズムという言葉の定義を自分が住んでいるところ以外のところに行った、つまり日常生活圏から超えたところでお金を落として、なおかつ1年以内の滞在と定義している。ツーリズムというところを少し捉え直した方が良い。

●観光っていうあやふやなものではなく、地元の方にも、いらっしゃった方々にも、このまちはすごく観光に対して力を入れているということが分かるような、見せる観光をもっとやる必要がある。

おもてなしが、充実してくると、お客様の満足度も上がる。お客様が満足していただいて、その情報を外に自分の言葉で出していただけるとというのが、1番のPRになるのでは。そのためには、まずここに来ていただいて、ご満足いただけるような施策もしくは環境整備をしっかりと努めていく必要がある。

常滑焼も大きな1つの観光要素。日本の中では唯一無二の観光要素なので、窯業の皆さんも含めて、うまく活用できる方法を探っていく必要がある。

●国際展示場が、人口6万人のまちにあるというのは、日本中見てもない。すごく大きな資源。ただし夕食難民など宿泊者の満足度は低いためこの展示場が選ばれなくなってしまい、イベントの開催者が選んでくれなくなってしまったため、使途をそちらにも。それがひいては、宿泊事業者の方の収入増にも繋がる。

◎来年の9月から50~70の大学生がチームで1台のフォーミュラカーを作って、最後は走らせて競争するという学生フォーミュラというものが5年から10年のスパンで行われることが決定している。その時に学生なのでできるだけ安く宿泊できるところをできるだけたくさん紹介してくださいという声があった。ここにもチャンスがある。

●店舗情報の提供。晩御飯ここ空いてるから使ってくださいなど。使途の金額よりもやり方をかなり考えていかないといけない。

●飲食としてファストフードが足りない。飲食と一概に言っても高いもの選ばれる方、安いもの選ばれる方が選べるような仕組み作りが必要。

●空港島エリアから遠いエリアの方の反対はよく理解できる。確かにそういうところが恩恵を受けられる施策はなかなか難しい。一定以下の部屋数の小規模な宿泊事業者からは宿泊税を徴収しないというような仕組みができればいい。

■次第2 (3) 宿泊税検討委員会報告書(素案)について【資料3】

●宿泊税を導入する方向で報告書が書いてあるが、絶対反対の宿泊事業者はどうなるのか。税制をスタートするにあたって猛反対している人を納得させることがまず必要。

◎総務省とも協議をしながら進めていかざるを得ない部分ではあるが、税の公平性という観点から難しい総務省から聞いている。

●反対している宿泊事業者を外すということが実質的にはなかなか難しいので、受益の方を考えていく必要がある。

●東京ビッグサイトでアニメの祭典などがある時に、安い食べ物でも売れているような偏りつつも面白いニーズが多い。また、コスプレをする方が多いが、着替える場所がないという意見もある。離れていても時間と場所は提供というような工夫をして差別化をはかり、集客をアップすることも考えられる。

●宿泊税の導入が、税が増えるというよりは、チャンスが出てきたと思わせるようなことが非常に重要。そのために、宿泊税が始まってからスタートするのではなく、宿泊税の前から施策をスタートしてほしい。いきなりじゃあやってくださいって言われても、なかなか難しい。ちょっとずつ、助走期間を作ってから、本格化っていう方が準備整えやすい。

●急に色々やるのはよくない。とにかく観光推進を前面に出すような努力を。

●宿泊税は年度内で使い切らないといけないとかそういうことはありますか。

◎基金を作ってそこに積み立てをするので、無理やり使うということはありません。

●基金についてはもう少し具体的なものが出ないと、どこまで積み立てるのかとか、あるいは何に使うのかとか、あるいは基金が溜まった時にどうするのかっていうことです。もっと基金を増やすのか、あるいはたまったので、別のことを考えるのか。そういうことも今後、必要。

●好循環サイクルの加速化が三原則のパラレルの並列に入ってるのは、しっかりこないな。魅力を高めるだとか、整理した方が良い。

●好循環サイクルというのは大前提にあって、その下に3つ立てた方がいい。常滑市ならではの魅力の開発や市民もカスタマーも含めた情報発信など。三原則に則ってやっていくというところは非常に納得感がある。市民の皆さんや宿泊施設の皆さんも恩

恵を感じられるような場を提供するというところは非常に重要。使途に関わる取り組みを知ってもらうための説明会やセミナー、困っていることのヒアリングの場が定期的にあると良い。

●明確に旅前と旅中を分けた政策を打った方が良い。旅前は、予約増に繋がるための施策。旅中は、誘客、収入促進、消費増に関わる場所。旅前では、飲食クーポンのように、例えば宿の予約しようと思っている人が、その時点でクーポンの情報が分かって、そことセットで販売や例えば常滑市宿泊や展示と調べた時にそのクーポンが出てくるといような検索軸と連動したり宿泊予約と連動したり旅前でいかに知らせるかが重要。「常滑市 猫」と調べたら、それ以外の常滑の情報もプッシュ通知されるような泊まってもらうための仕掛け。宿が集客が厳しいという課題があれば、例えば古くからこの町を知っていて観光にも携わっている方たちが、ガイドとして宿以外の収入を得るような支援や、先ほどのアニメ+着替えられる場所のような宿の別の形の空間の利用観光人材をさらに用途を広げていって、稼げる他の方法を見つけてもらうことも観光として注力していくのであれば、今後考えられる。使途の柱となる三原則というところの考え方は、非常に理にかなっている。

●12 ページの表頭の方に、旅中旅前などマトリックス化すると、整理がしやすい。

●合わせて今やっている既存の施策を表に載せてやるとかなり整理がしやすい。市民に説明するときには使えるかもしれない。市民向けのセミナーや説明会のような市民の機運が上がるようなことが必要。

●説明会では、各業界ごとにご説明を。

●全体として導入を前提としたところで進めていくというような意見だった。こうやればいい、ああやればいいっていうアイデアって割に出てくるが、それを誰がどのように実現するのかっていうのは、非常に難しい。そういうことをやる組織自体がいる。実行部隊のような。